

授業科目 比較言語研究	単位 2単位
授業担当者 菊澤 律子	授業期間 後 期
<p>授業の題目と概要</p> <p>「手話言語学」</p> <p>言語としての手話の位置づけと、手話を言語として記述するために必要な言語学の基礎を学ぶ。また、手話話者コミュニティーの文化を対象とした「デフ・スタディーズ」の概念を理解することを目的とする。</p>	
<p>授業の内容と計画</p> <p>文献購読を中心とする。毎回の授業までにその回の課題論文を精読しておくこと。授業では課題論文の内容について討議する。</p>	
<p>使用する参考書、参考論文等</p> <p>◆受講前に目を通しておくことが望まれる文献</p> <p>市田泰弘「手話言語学入門(1)」 http://slling.net/intro/intro1.htm</p> <p>市田泰弘「手話言語学入門(2)」 http://slling.net/intro/intro2.htm</p> <p>Groce, Nora Ellen. 1988. <i>Everyone here spoke sign language: Hereditary deafness on Martha's vineyard</i>. Harvard University Press.</p> <p>Mathur, Gaurav and Donna Jo Napoli (eds). 2010. <i>Deaf around the world: The impact of language</i>. Oxford University Press.</p> <p>◆購読のための文献については、その都度指示する。</p>	
<p>成績評価基準</p> <p>出席率と毎回の課題による。</p>	
<p>その他の留意事項</p> <p>履修対象者は、原則として言語学の基礎的な知識(音声学、音韻論、形態統語論、比較言語学)を有する者とする。受講希望者は、登録前に授業担当者に連絡をとり、授業の内容や受講の可否について確認すること。</p>	